

植物防疫情報 第3号

平成24年 5月 11日
岡山県病害虫防除所
岡山県植物防疫協会

モモハモグリガの発生が早く、多発傾向

岡山県病害虫防除所による5月7日の巡回調査（南部）によると、モモ園のモモハモグリガの発生程度は低いものの、発生ほ場率が42.9%と平年（3.9%）より高くなっています。また、赤磐市のフェロモントラップにおける4月1～5半旬の誘殺数は33頭で、平年（7.1頭）より多くなっています。今後、本虫の増殖に好適な高温乾燥条件が続くと発生量が増加する可能性があるため、ほ場を観察して幼虫の発生動向に注意し、葉への食入痕が確認された場合は速やかに防除を実施してください。

<防除対策および防除上の参考事項>

- (1) 薬剤による防除は10月まで発生に応じて実施する。ただし、発生回数が多く、世代が進んで卵～成虫の成育ステージが混在すると薬剤の防除効果が劣るので、特に6月20日までの初期防除に重点をおく。なお、使用する主な防除薬剤は下表による。
- (2) 本虫が食入して落葉した葉は次世代の発生源となるので、集めて処理する。
- (3) 農薬の使用に当たっては、使用基準を厳守し、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ農薬が飛散しないよう十分注意する。
- (4) 最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターホームページ（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で確認できる。

表 モモハモグリガの主な防除薬剤（平成24年5月8日現在）

薬剤名	農薬使用基準		
	濃度・処理量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数
アディオソ乳剤	2,000倍～4,000倍	7	6
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	1	3
ノーモルト乳剤	1,000倍～2,000倍	1	2
フェニックスフロアブル フェニックス顆粒水和剤	4,000倍	1	2
モスピラン顆粒水溶剤 モスピラン水溶剤	2,000倍～4,000倍	1	3
サムコルフロアブル10	5,000倍	1	2
スピノエースフロアブル*	2,000倍～6,000倍	3	3
ディアナWDG*	5,000倍～10,000倍	1	2
アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	3	2
オリオン水和剤40	1,000倍	7	5
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	7	3

注 *印の2剤は同じ系統の薬剤なので多用を避ける

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。